

第8回 島田直子さん (筑波大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第8回目は、島田直子さん（筑波大学）にご執筆いただきました。

私は、留学生のカウンセリングや文化マイノリティの子どもたちの研究を行っています。最近、グローバル化という言葉をよく耳にすることが多くなり、メディアでも文化差について取り上げられることが多くなってきたように感じます。外国にルーツをもつ人々や文化間を移動した経験のある人たちと接すると、自分が思いつかなかった視点を得ることがあり、とても興味深いです。

家には1歳と6歳の子どもがいて、彼らもまた大人の私が考え付かないようなユニークな視点に気づかせてくれます。こちらが当たり前だと思っていて、疑問にも思わないようなことを「どうして？」と聞かれると、戸惑いながらも、どうしてだろうと真剣に考えざるをえなくなります。

異文化との交流と子育てには、自分の考え方や価値観を振り返る機会になるという点において、通じるものがあるなあと感じています。子育てと仕事の両立は大変ですが、様々な新鮮な視点に囲まれて充実した日々を過ごしています。

島田直子 (Naoko Shimada) さん

【ご所属】 筑波大学 保健管理センター&グローバル・commons機構

【ご連絡先】 naoko3453@yahoo.co.jp

【その他】

専門は学校心理学、多文化心理学、臨床心理学。現在は文化マイノリティの子供たちや文化間を移動する子どもたちの心理的、教育的ニーズをどのように支援していけばよいかについての研究を行っています。心理学の分野で、文化マイノリティ研究はマイノリティになってしまいがちですが、ぜひ今後も研究を広げていきたい分野です。